

2025 FISU World University Games

Report 7 (7/27)

7月27日(日)

FISU World University Games 大会最終日。WUG日本代表チームは、男子ダブルスカルスのFinal Aのほか、男子ペア、女子シングルスカルスのFinal Cの3本のレースがあります。昨日にレースが終わった選手たちも応援やサポートを行い、チーム一丸となって最後まで戦いました。

早朝の雷雨予想で、6:30~8:00の公式トレーニングが水上で行えなくなり、エルゴのみの公式トレーニング時間となりました。コーチ陣は、昨夜の風雨での艇の汚れを洗い、丁寧に艇を拭いておりました。



必死に前を追うM2-クルー。左から B上戸選手(明治安田)、S青木選手(明治安田)。

M2- Final C

序盤からベルギー、インド、ハンガリーなどがレースを引っ張り、日本は僅差ながら6位で500mを通過。その後香港がトップに立ちベルギーとハンガリーが続く展開となり、日本はインドと並ぶように5位争いに回る。

ラストクォーター、日本は必死にインドをかわそうとスパートをかけて差を詰めるが、わずかに及ばず6位でゴール。総合で18位となった。

W1x Final C

序盤からオランダが抜け出そうとし、オーストラリア、カザフスタン、スペイン、日本が並ぶようについていく。スロバキアは遅れる。

その後オランダが完全に抜け出し、カザフスタン、オーストラリア、スペイン、日本の4か国の2位争いが繰り広げられるが、このグループも分かれ、日本とスペインは4位争いをしながら終盤へ突入。ラストクォーターで日本はスペインを突き放しさらに前に行くオーストラリアに迫るが4位でゴール。総合16位となった。



ラストスパートをかけるW1x井上選手(立教大学)。

M2x Final A

スタートからオランダとクロアチアがややリードしながら優位な状態でレースを進めるが、他国もびたりと続き、日本もメダルを狙うには十分な位置でレースを進め、500mはトップと1.33秒差の5位で通過。第2クォーターに入り日本は徐々に艇速を伸ばし、3位イタリアに並ぶように1000mを通過。その後も日本はメダル圏内でレースを進め、ラストクォーター勝負に入る。ここで、一度かわした隣のレーンのリトアニアが猛然と仕掛け、日本とイタリアに並びかけ1500mを通過。ラストクォーター、イタリアとリトアニアと日本のメダルをかけた熾烈な3位争いが繰り広げられるが、ここで日本が脱落。ゴール前でモルドバにもかわされ6位でゴール。

最終的には最下位でのゴールとなったが、常にメダルを狙える位置で見ごたえのあるレースを繰り広げ価値ある入賞となった。



大林コーチ（右）と出艇前のミーティングを行うM2xクルー。



レースを終えた仲間たちがM2xクルーを元気に見送ります。



ゴール前、必死の力漕を見せるM2x クルー。左から B中島選手（日本大学）、S宮口選手（NTT東日本）。

男子ダブルスカルFinal Aをもって、WUG日本代表チームの挑戦は幕を閉じました。今大会より、オープン種目のみの厳しい挑戦となりましたが、男子ダブルスカルがFinal Aに進出し、十分にメダルを狙える位置でレースをしてくれたことや、女子ダブルスカルも惜しくもFinal Bにまわりましたが、良く戦い抜き9位に食い込むなど、メダル獲得には至りませんでしたが、今後日本がオープンカテゴリーで戦ううえで新たな希望の光を見いだせた大会だったのではと考えております。

この大会の経験を、若いアスリートたちが自身の成長につなげていってくれることを心より望んでおります。

最後に、ここまでWUG日本代表チームに関わってくださった全ての皆様に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

「ご声援ありがとうございました」

～2025年FISU World University Games日本代表選手団一同～



後列左より、チームリーダー 森山修、M2x 宮口大誠(NTT東日本)、M2x 中島広大(日本大学)、
M1x 菅原陸翔(関西電力)、M2- 青木洋樹(明治安田)、M2- 上戸慧太(明治安田)
前列左より、トレーナー 岸陽斗、サポートコーチ 佐藤芳則(明治安田)、W2x 岸本唯佳(NTT東日本)、
W2x 猪野日向子(明治安田)、W1x 井上幸乃(立教大学)、コーチ 大林邦彦